0. 調査の目的と方法

初年度の「まちにわ ひばりが丘」の活動が地域の居住者にどう受け止められ、どのような効果を生んでいるか、また今後の活動のなかでどのような課題が存在し得るかを明らかにすることを目的に、ひばりが丘フィールズ一番街および二番街への入居者を対象にアンケート調査を実施した（表 0）。設問は、①回答者の属性、②「まちにわ ひばりが丘」への認知度と参加、③「まちにわ ひばりが丘」の運営、④「ひばりテラス 118」の利用と運営、⑤地域のつながり、⑥まちへの愛着と期待、の大きく 6 項目からなる。pp.24-29 に依頼文および質問票を示す。

表 0. アンケート調査の概要

対　象	一番街（入居開始 2015 年 3 月／144 戸） 二番街（入居開始 2015 年 9 月／156 戸）	
方　法	各戸に投函、管理組合ポストにて回収	
期　間	配布：2015 年 12 月	回収：2016 年 1 月
回収率	35.9%（配布数 284、回収数 102）	

1. 回答者の属性

まず、回答者の基本的な属性を示す。

住まいは「一番街」「二番街」がほぼ同数（図 1-1）、男女比は女性が 6 割とやや多くなっている（図 1-2）。年齢は「40 代」以下の比較的若い世代が 7 割近くを占めている（図 1-3）。家族形態は未成年の子がいる世帯が半数近くと最も多い（図 1-4）。職業は「会社員」が 5 割、「専業主婦・家事手伝い」が 2 割を占める（図 1-5）。

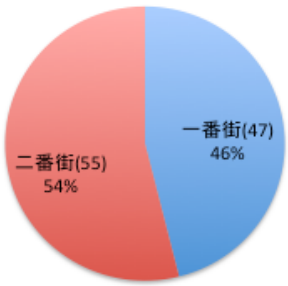

図 1-1. 住まい（n=102）

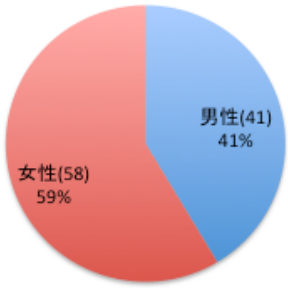

図 1-2. 性別（n=99）

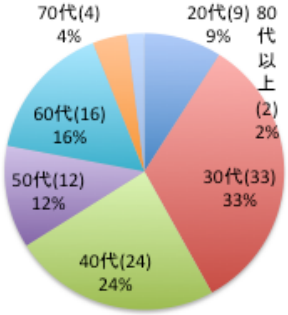

図 1-3. 年齢（n=100）

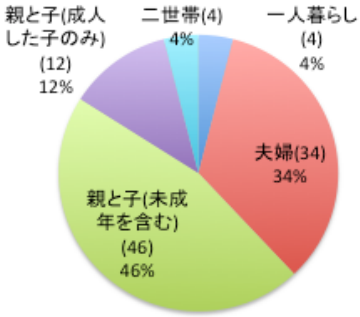

図 1-4. 家族形態（n=100）

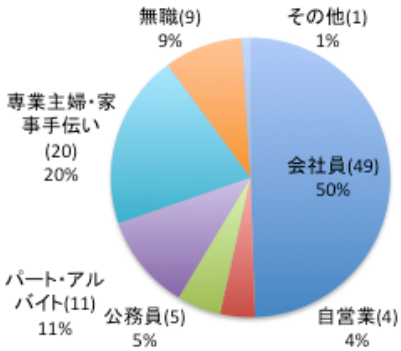

図 1-5. 職業（n=100）

図 1-6～9 は、「一番街」「二番街」間で「性別」「年齢」「家族形態」「職業」を比較したものである。回答者の男女比や職業は街区間で大きく変わらないが、年齢構成は二番街の方が若く、「親と子（未成年を含む）」からなる子育て世帯も二番街の方が多くなっている。

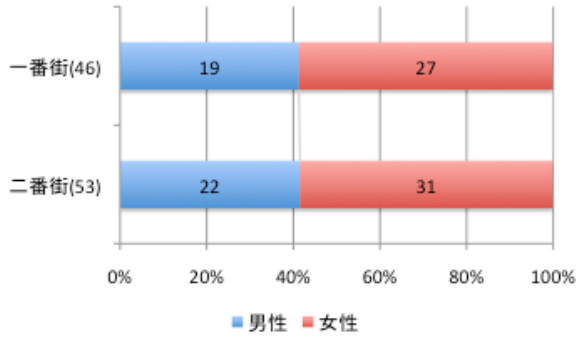

図 1-6. 街区別の性別

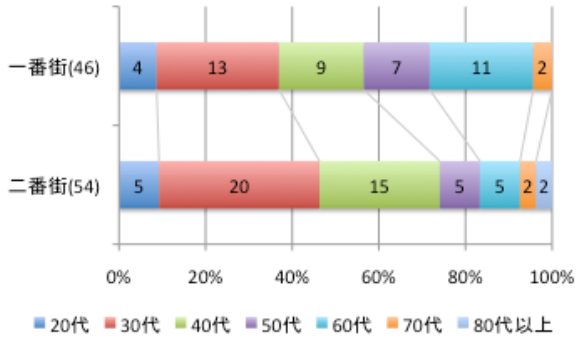

図 1-7. 街区別の年齢

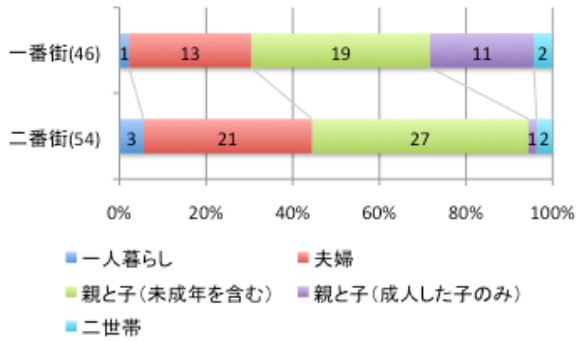

図 1-8. 街区別の家族形態

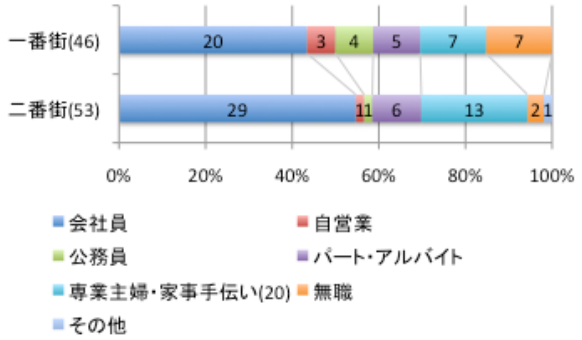

図 1-9. 街区別の職業

図 1-10、11 は、回答者の「年齢」別に見た「家族構成」「性別」である。40 代以下の世帯のおよそ 7 割は、「親と子（未成年を含む）」からなる子育て世帯である。また、「女性」の回答者は若い年代が占める割合が高い。

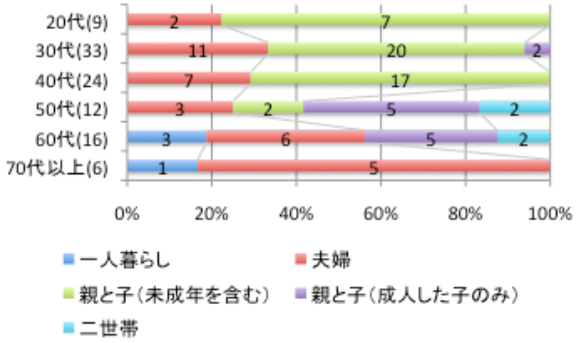

図 1-10. 年齢別の家族形態

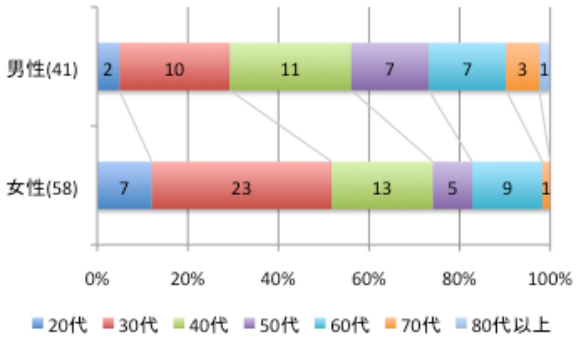

図 1-11. 性別別の年齢

2.「まちにわ ひばりが丘」の認知と参加

「まちにわ ひばりが丘」（以下「まちにわ」）を知っているかどうかを尋ねたところ、半数が存在・活動ともに「知っていた」、4 割近くが「存在は知っていた」と答え、「知らなかった」は 1 割に満たなかった（図 2-1）。

「まちにわ」のイベントに参加したことのある住民は 4 割強を占める（図 2-2）。参加したイベントは図 2-3 の通りである（「その他」は表 7-1 に示す）。参加しなかった理由は「関心はあったが参加できなかった」が 4 割強と最も多い（図 2-4[1]）。「その他」の理由を表 7-2 に示す。今後「企画したい／して欲しいイベント」を尋ねたところ図 2-5 の結果が得られた。「子育て」「健康・運動」「防災・防犯」「趣味の交流」関連のイベントへの要望が特に多いが、幅広い分野への関心がうかがえる（「その他」は表 7-3 参照）。

表 7-4 は「まちにわ」のイベントに対する意見・感想（自由回答）の一覧である。

[1] 回答数 61 件が図 1-2-1 の「参加したことはない」56 件を上回っているのは、図 1-2-1 で「参加したことがある」と答えた 2 件、「その他」と答えた 1 件、未回答だった 3 件が含まれているからである。

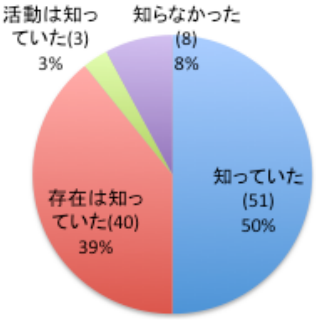

図 2-1. 「まちにわ」の認知（n=102）

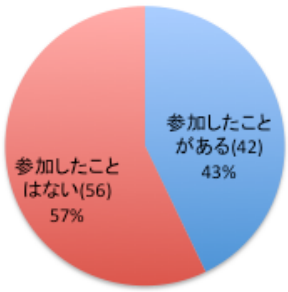

図 2-2. イベントへの参加状況（n=98）

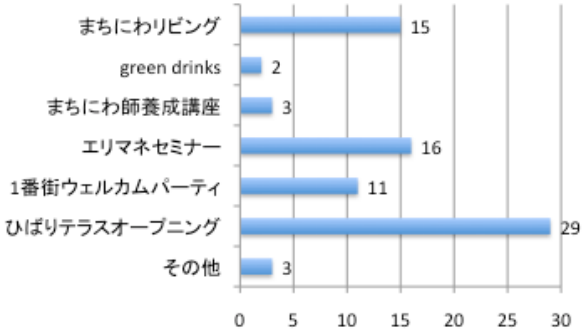

図 2-3. 参加したイベント（複数回答／n=41）

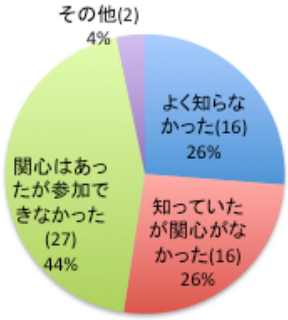

図 2-4. イベントに参加しなかった理由（n=61）

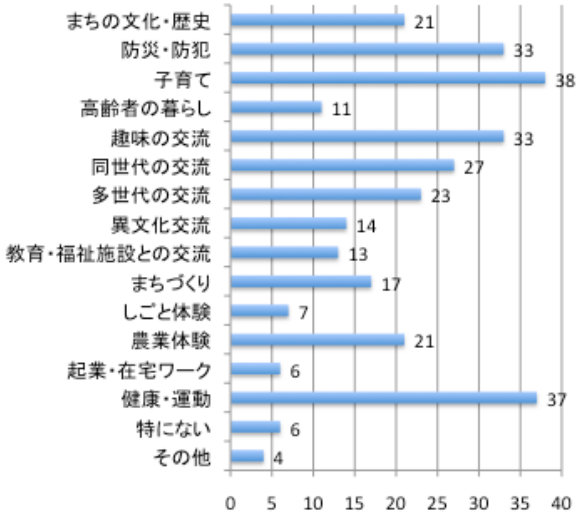

図 2-5. 企画したい／して欲しいイベント（複数回答／n=100）

「まちにわ」を知っているかどうかを「性別」「年齢」別に集計したものが図 2-6、7 である。男女間で際立った差は見られないが、年齢との関係では「60 代」以上で認知が下がる傾向が読み取れる。

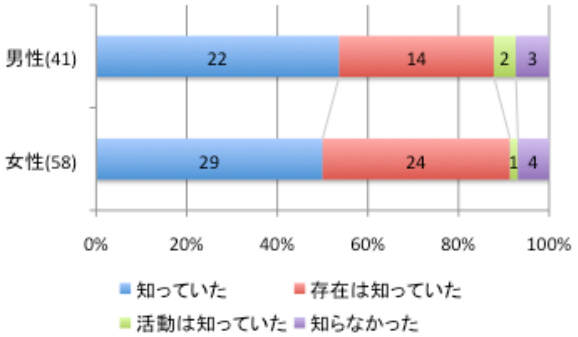

図 2-6. 男女別の「まちにわ」の認知

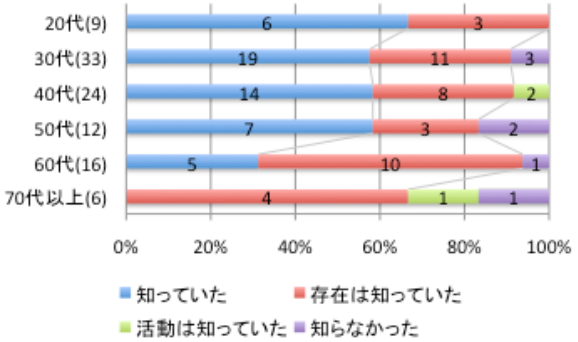

図 2-7. 年齢別の「まちにわ」の認知

図 2-8、9 は、イベントへの参加状況と「性別」「年齢」との関係を見たものである。「性別」別では「女性」の方が、「年齢」別では若い世代の方が比較的多く参加している。実際に参加したイベントを見てみると、ほとんどの企画において「女性」の参加者が「男性」を

上回っているが、「エリアマネジメントセミナー」では男女の参加者が拮抗している（図 2-10）。また「エリアマネジメントセミナー」と「1 番街ウェルカムパーティ」では、比較的高い年代の参加者を得ている（図 2-11）。

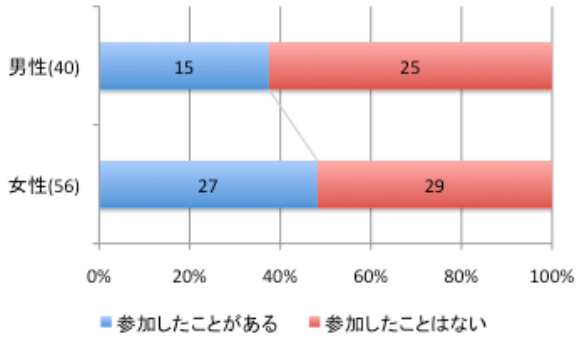

図 2-8. 性別別のイベント参加状況

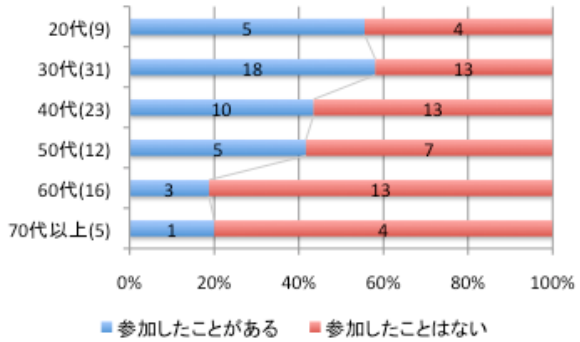

図 2-9. 年齢別のイベント参加状況

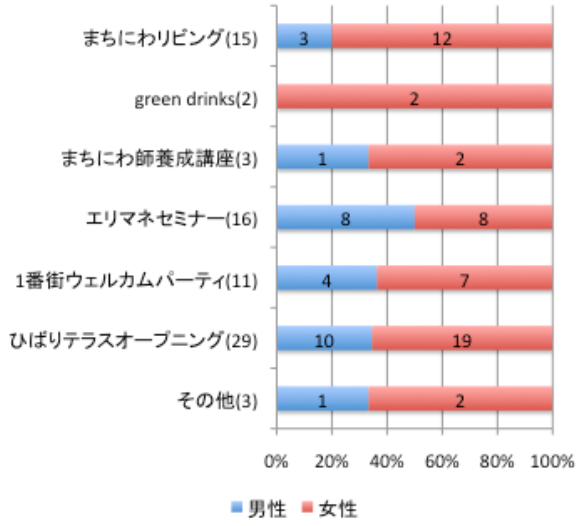

図 2-10. 各イベントへの参加者の性別

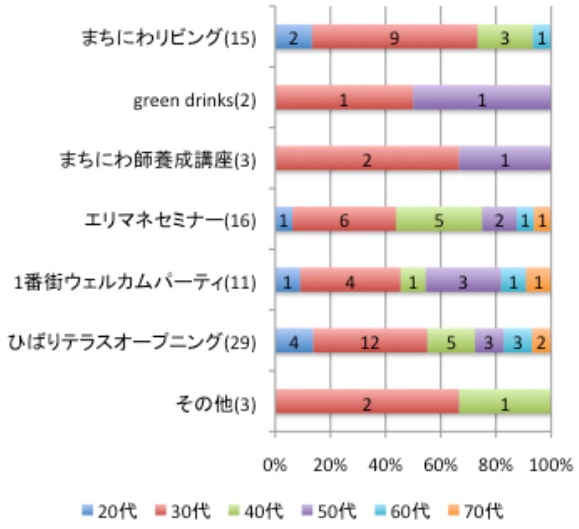

図 2-11. 各イベントへの参加者の年齢

イベントに参加していない回答者のうち、「女性」については「関心はあったが参加できなかった」との回答が半数以上を占め（図 2-12）、潜在的な参加層の存在がうかがえる。こうした層は、各年齢層におよそ一定割合存在する（図 2-13）。

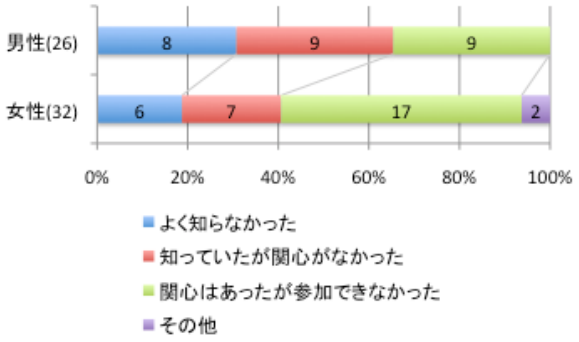

図 2-12. 性別別のイベント不参加理由

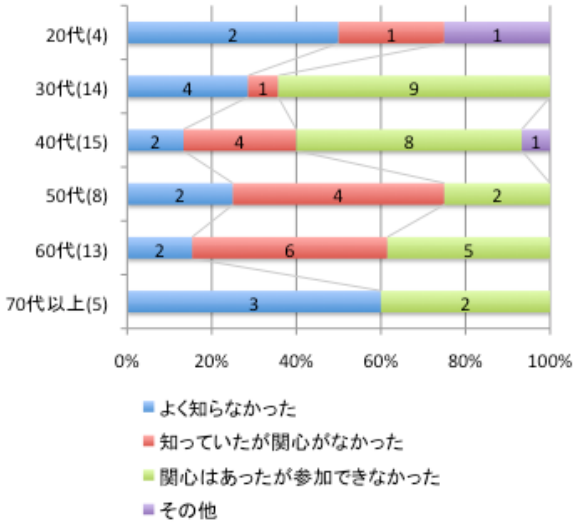

図 2-13. 年齢別のイベント不参加理由

図 2-14、15 は、「企画したい／して欲しいイベント」と「性別」「年齢」の関係を示したものである。「性別」別について、「男性」の要望が「女性」を上回る数少ないものとしては「まちの文化・歴史」「しごと体験」「起業・在宅ワーク」などがある。「年齢」別には、当然のことながら「高齢者の暮らし」や「健康・運動」などの希望者には高い年代が多く、「子育て」イベントの希望者の多くは若い世帯である。「趣味の交流」「同世代の交流」「多世代の交流」「異文化交流」の希望者については、年齢的な違いは見られなかった。

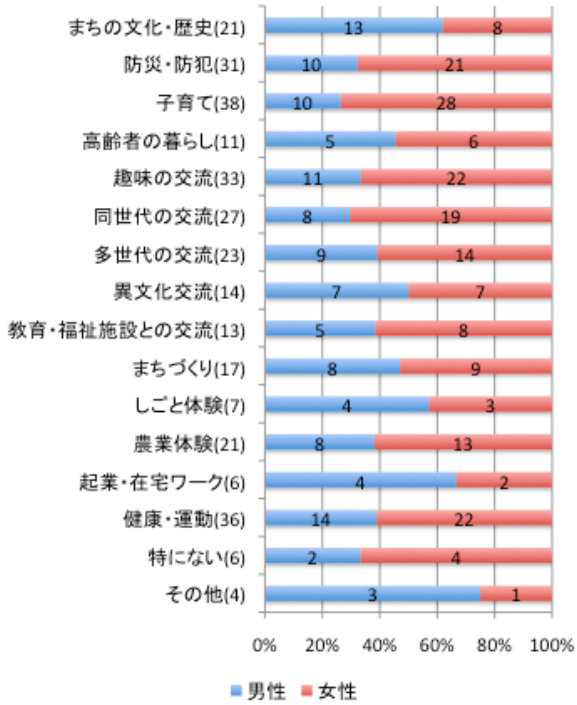

図 2-14. 企画したい／して欲しいイベントと性別

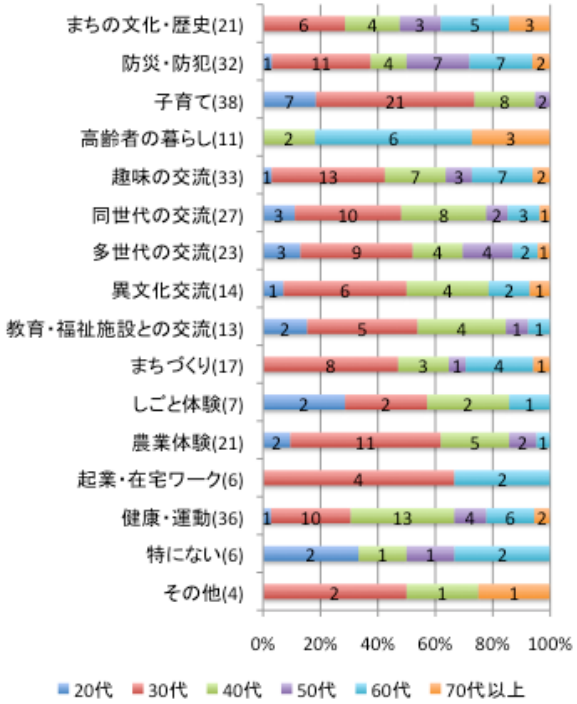

図 2-15. 企画したい／して欲しいイベントと年齢

3.「まちにわ ひばりが丘」の運営

図 3-1 は、「まちにわ」の運営にボランティア・スタッフ・理事などとして参加しているかどうかを尋ねたものである。現在 1 割ほどの居住者が「参加している」。

一方「参加していない」と答えた居住者に今後の意向を尋ねたところ（図 3-2[2]）、「参加したい」との回答が 16%あり、エリアマネジメントのさらなる潜在的な担い手が少なくとも一定数存在することがうかがえる（「その他」の内容は表 7-5 に示す）。

図 3-3 は、この 16%の居住者に考えられる運営への参加形態を尋ねたものである[3]。大半が参加形態は「よくわからない」と答えている（「その他」は表 7-6 参照）。

[2] なお、この設問で設けた「（エリアマネジメントの）趣旨に賛同しない」の選択肢への回答はまったく見られなかった。
[3] 「「まちにわ ひばりが丘」の理事として」の選択肢には回答がなかった。

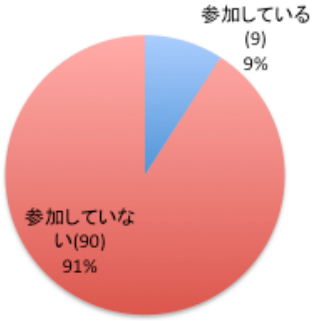

図 3-1. 「まちにわ」の運営への参加（n=99）

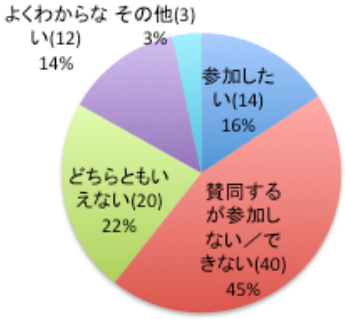

図 3-2. 「まちにわ」の運営への参加意向（n=89）

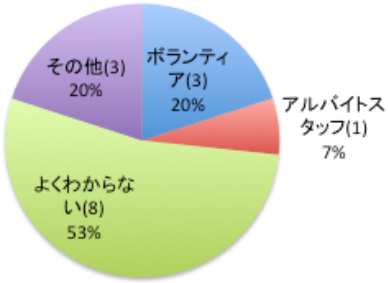

図 3-3. 運営への参加形態（n=14）

「まちにわ」の運営に参加している回答者とそうでない回答者の「性別」「年齢」を示したものが図 3-4、5 である。運営への参加者は、「性別」としては「女性」の割合が高く、「年齢」別には「30 代」が過半を占めている。

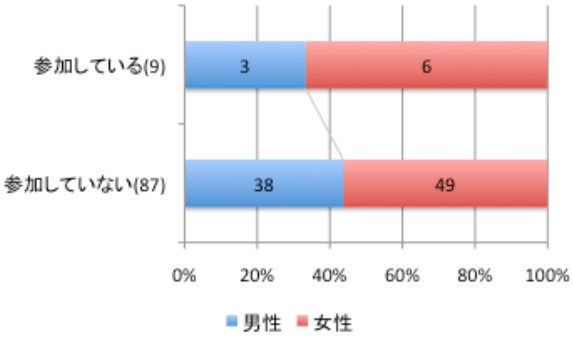

図 3-4. 運営への参加と性別

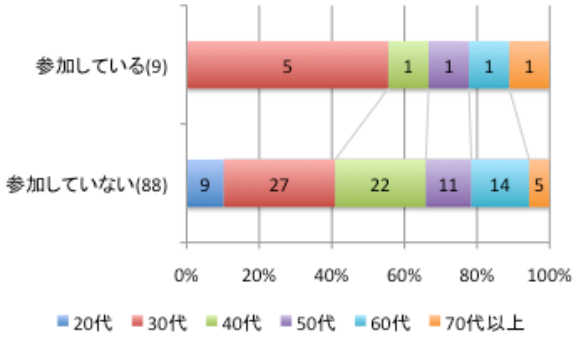

図 3-5. 運営への参加と年齢

「まちにわ」の運営に現在参加していない回答者の参加意向と「性別」「年齢」との関係を図 3-6、7 に示す。今後の運営への参加について「どちらともいえない」「よくわからない」と態度を保留している回答者は女性に多い。参加意向と年齢とは特に関係が見られない。

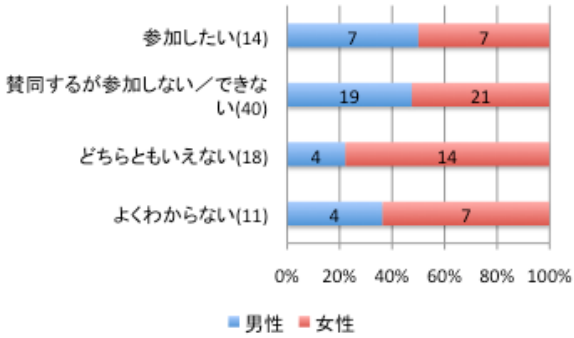

図 3-6. 運営への参加意向と性別

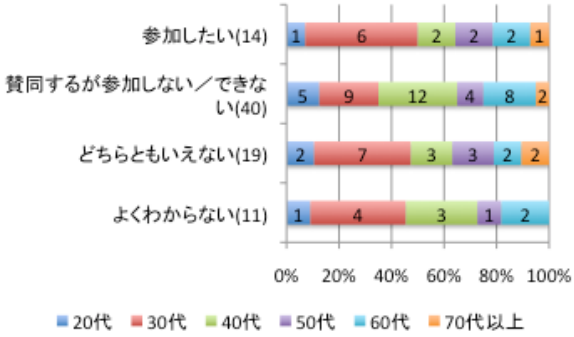

図 3-7. 運営への参加意向と年齢

図 3-8、9 では、各参加意向の回答者が「まちにわ」を知っているかどうか、また「まちにわ」のイベントに参加したことがあるかどうかを示した。運営に「参加したい」とする回答者の大半がエリアマネジメント組織の「存在」も「活動」も理解している。こうした理解と参加意欲との関係とは対照的に、イベントへの参加経験は必ずしも運営意欲の多寡と結びついている

とはいえいない。

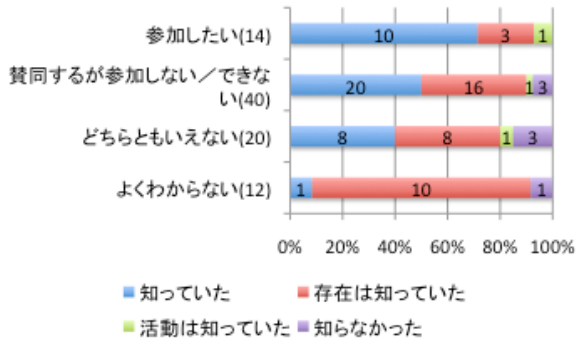

図 3-8. 運営への参加意向と「まちにわ」の認知

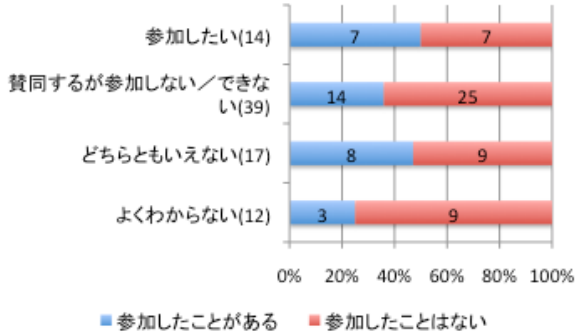

図 3-9. 運営への参加意向とイベントへの参加状況

4.「ひばりテラス 118」の利用と運営

図 4-1 は、「ひばりテラス 118」内の「カフェ」「コミュニティスペース」「パーソナルスペース」の利用状況を比較したものである[4]。最も利用率の高い「カフェ」では、すでに「利用している」が 3 割弱、まだ使ったことはないが「利用したい」が 5 割近くを占めている。「コミュニティスペース」「パーソナルスペース」においても、「利用している」「利用したい」の合計がそれぞれ 5 割強、4 割強を占めている。

「ひばりテラス 118」が「現在どういう場だと感じるか」「今後どういう場になって欲しいか」を尋ねたところ、図 4-2 の結果が得られた（「その他」の具体的内容は表 7-7、8 参照）。「交流の場」「憩いの場」「情報発信の場」になっているとの現状評価がなされているといえるが、「趣味の場」「見守りの場」になって欲しいとの期待も少なくない。また「その他」を除くすべての項目で現状認識よりも期待の方が高い値を示していることからも、寄せられた関心は大きいといえる。

表 7-9 は、「ひばりテラス 118」の利用・運営に対する意見・感想・アイデア（自由記述）である。

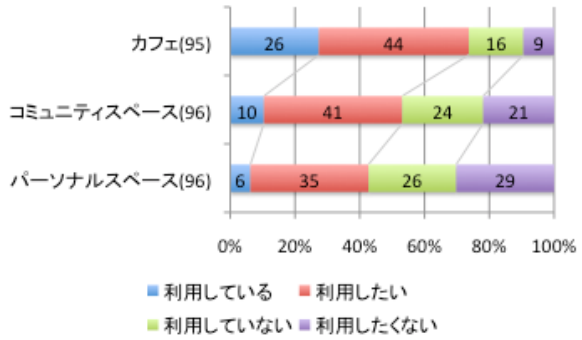

図 4-1.「ひばりテラス 118」の利用状況

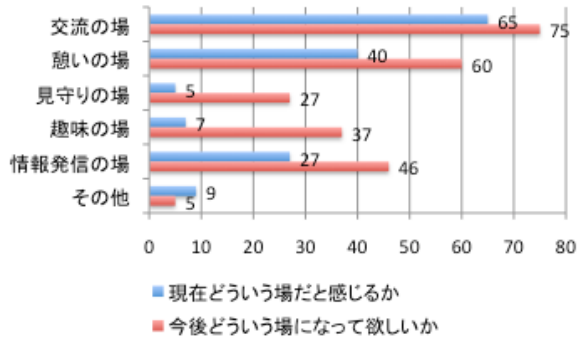

図 4-2. 「ひばりテラス 118」への現状認識と期待（複数回答／n=98）

図 4-3～5 は、「カフェ」「コミュニティスペース」「パーソナルスペース」の利用状況を性別間で比較したものである。総じて「男性」より「女性」の方が「利用している」割合が高く、利用していない場合でも「利用したい」とする声が多い。性別による差は「コミュニティスペース」に最も顕著に現れ、実際に利用した「男性」は 1 人のみだった。

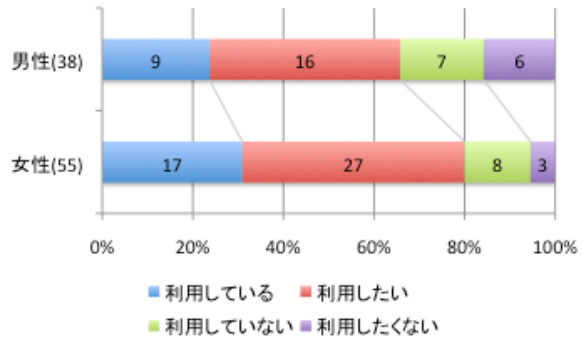

図 4-3. 性別別の「カフェ」の利用状況

[4] 「利用していない」回答者には利用したいかどうかの追加の設問を設けたが、この追加の設問に無回答だった回答が相当数あり、単に「利用していない」と分類した。

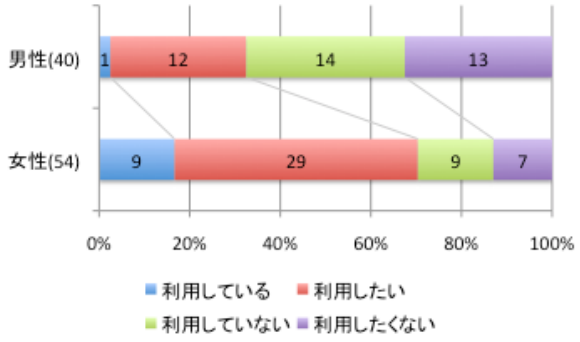

図 4-4. 性別別の「コミュニティスペース」の利用状況

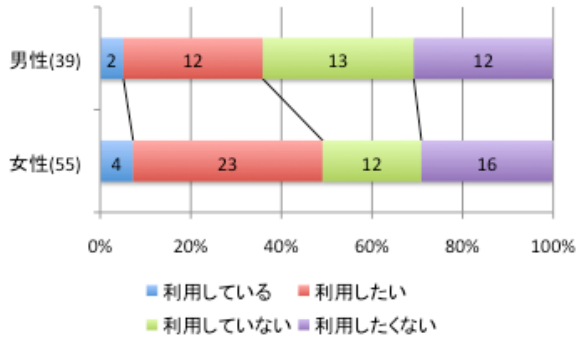

図 4-5. 性別別の「パーソナルスペース」の利用状況

「カフェ」「コミュニティスペース」「パーソナルスペース」の利用状況を年齢別に見てみると（図 4-6～8）、総じて「20 代」「30 代」の若い世代の利用率が高いことがわかる。ただし「カフェ」については、データ数が少ないものの、「70 代以上」で利用率が大きく伸びている。

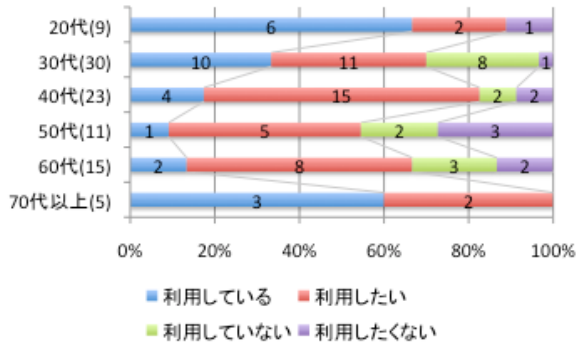

図 4-6. 年齢別の「カフェ」の利用状況

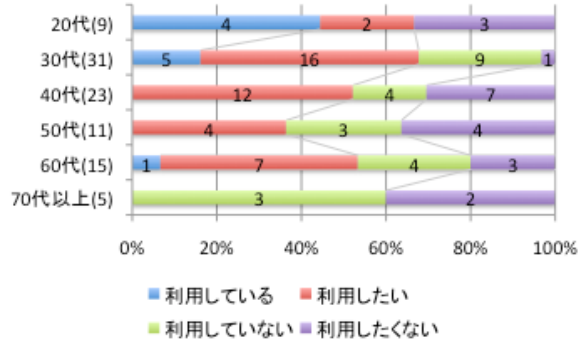

図 4-7. 年齢別の「コミュニティスペース」の利用状況

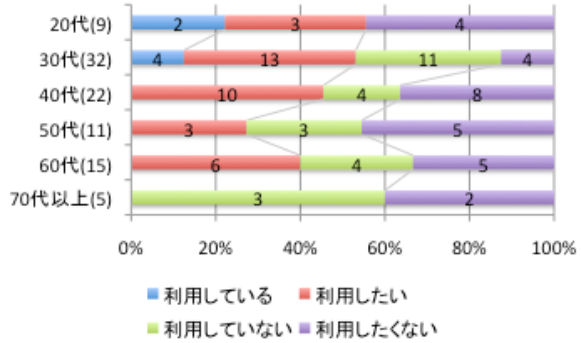

図 4-8. 年齢別の「パーソナルスペース」の利用状況

家族構成との関係では、データ数が少ないものの、特に「コミュニティスペース」「パーソナルスペース」において未成年の子のいる子育て世帯の利用率の高さがうかがえる（図 4-9～11）。

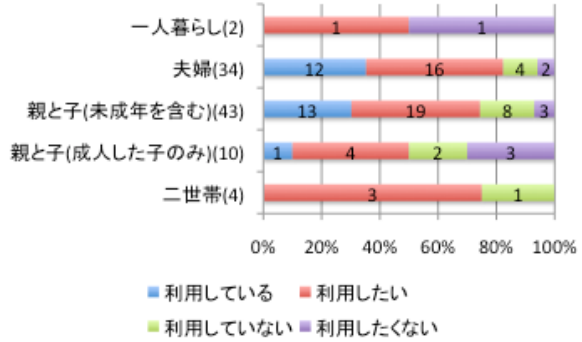

図 4-9. 家族構成別の「カフェ」の利用状況

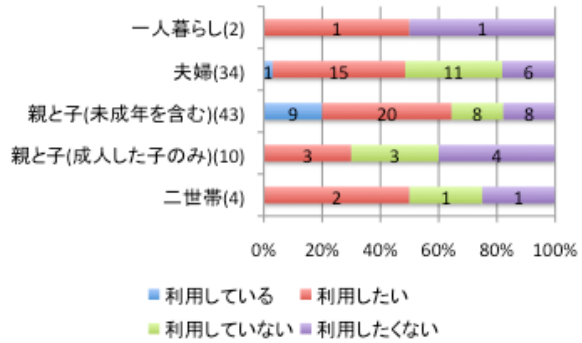

図 4-10. 家族構成別の「コミュニティスペース」の利用状況

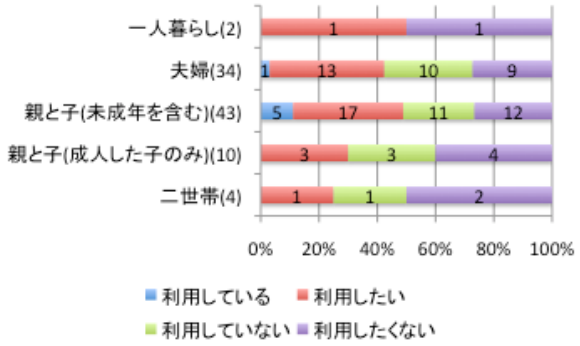

図 4-11. 家族構成別の「パーソナルスペース」の利用状況

図 4-12～14 は、「カフェ」「コミュニティスペース」「パーソナルスペース」の利用状況と図 3-1、2 で見た「まちにわ」の運営への参加状況・意向との関係を示したものである。運営への参加に前向きな回答者はこれらの場所の利用割合もやや高い傾向が見られるが、組織運営と場所利用への姿勢が必ずしも一致しない回答者が存在する点も見落としてはならない。

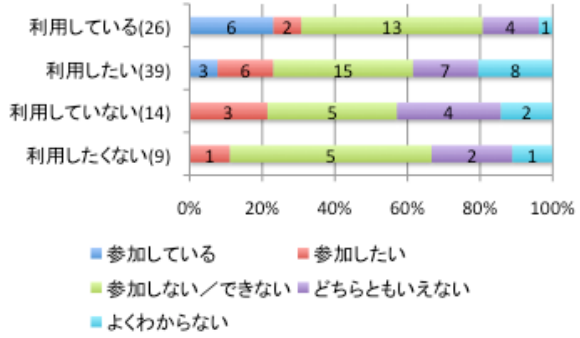

図 4-12. 「カフェ」利用状況と「まちにわ」運営への参加状況・意向

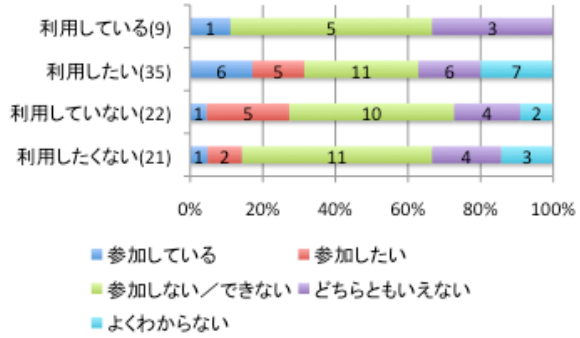

図 4-13. 「コミュニティスペース」利用状況と「まちにわ」運営への参加状況・意向

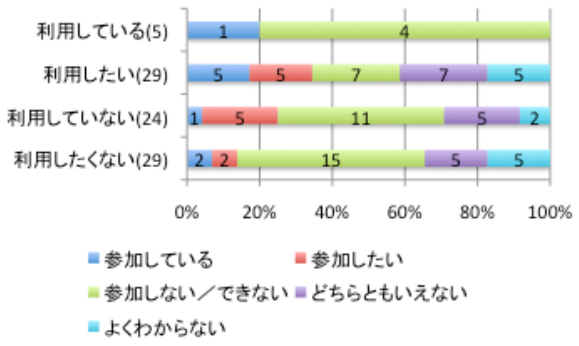

図 4-14. 「パーソナルスペース」利用状況と「まちにわ」運営への参加状況・意向

図 4-15～17 は、図 4-2 で見た「ひばりテラス」への期待と「性別」「年齢」「家族形態」との関係を示したものである。「見守りの場」となることを期待する回答者に「40 代」や「親と子（未成年を含む）」からなる世帯がやや多いものの、その他は大きな傾向が見られない。回答者の属性に関わらず様々な期待が寄せられているといえる。

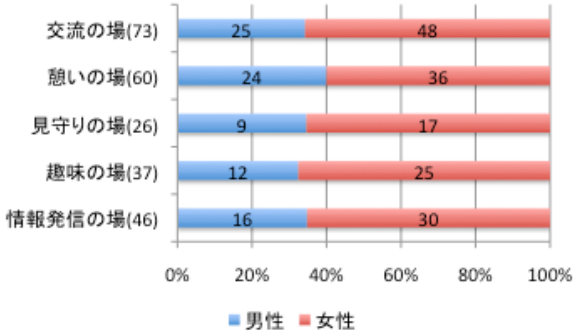

図 4-15. 「ひばりテラス 118」への期待と性別

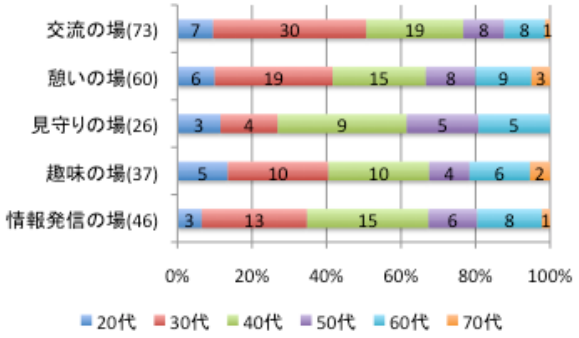

図 4-16. 「ひばりテラス 118」への期待と年齢

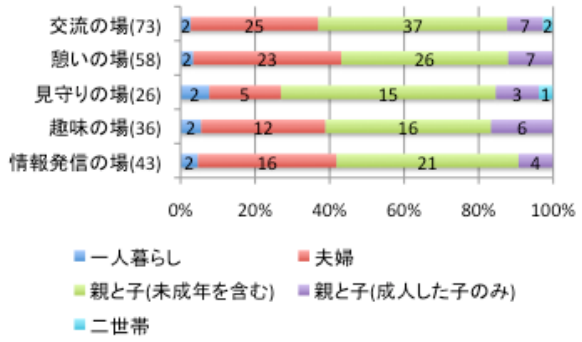

図 4-17. 「ひばりテラス 118」への期待と家族形態

5. 地域のつながり

「同じマンション」や「ひばりが丘」に「親しく話をする人」「頼み事ができる人」がいるかどうかを尋ねたものが図 5-1、2 である[5]。「親しく話をする人」「頼み事ができる人」ともに「同じマンション」よりも「ひばりが丘」の住民において多く、交流関係が多少なりとも地域に広がっている状況がうかがえる。

図 5-3、4 は、そうした関係が「まちにわ」や「ひばりテラス 」での交流を通して広がったかどうかを尋ねたものである。「頼み事ができる人」が増えるまでには至ってはいないものの、「親しく話をする人」が「同じマンション」内で「増えた」と答えた世帯が 2 割近く見られるなど、各種イベント等が入居者の交流関係の形成に少なからず寄与した効果が確認できる。

表 7-10 は、「まちにわ」や「ひばりテラス 118」での交流をきっかけに生まれた地域のつながりなどである。

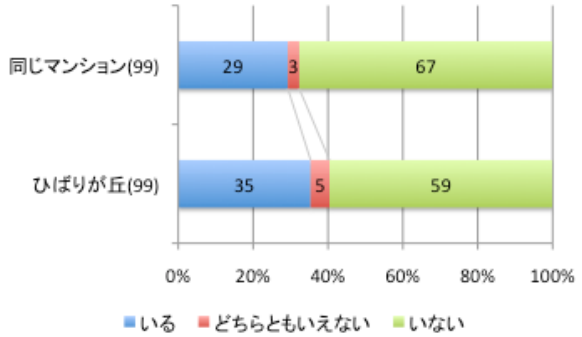

図 5-1. 親しく話をする人の有無

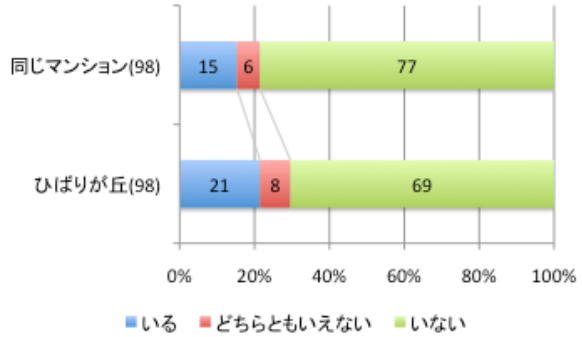

図 5-2. 頼み事ができる人の有無

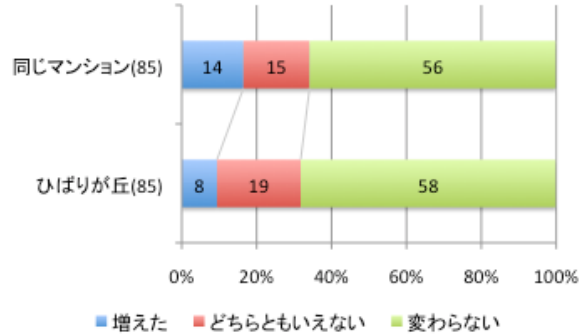

図 5-3. 親しく話をする人の変化

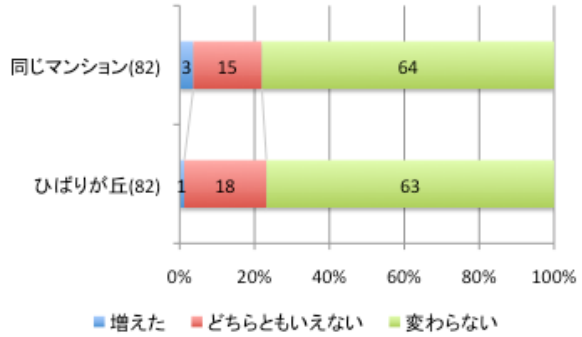

図 5-4. 頼み事ができる人の変化

「親しく話をする人」が「同じマンション」や「ひばりが丘」にいるかどうか、またそうした人が「まちにわ」や「ひばりテラス」での交流を通して増えたかどうかを男女別に示したものが図 5-5～8 である。「男性」より「女性」の方が「同じマンション」「ひばりが丘」ともにやや広い交流関係を築いている。ただし、「まちにわ」や「ひばりテラス」での交流で深まった対人関係を見てみると、「女性」はほぼ「同じマンション」の居住者同士に限られている。

[5] ここでいう「ひばりが丘」が「同じマンション」含むかどうか、次年度のアンケートでは明確にする必要がある。

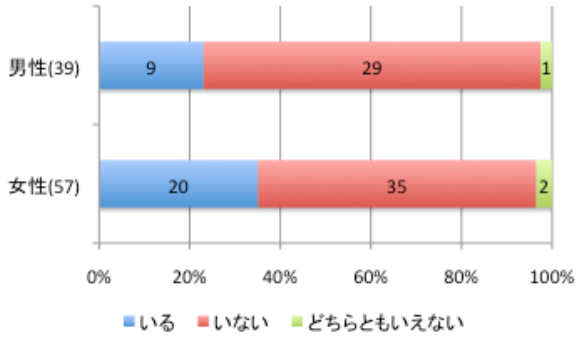

図 5-5. 性別と親しく話をする人の有無（同じマンション）

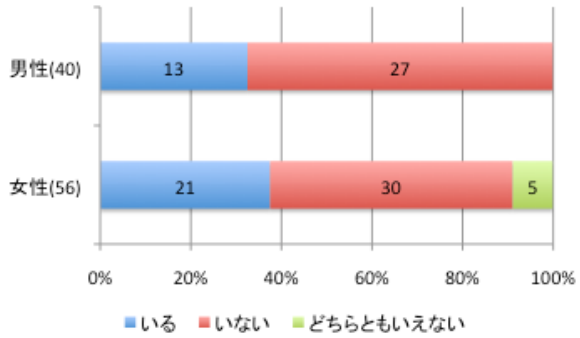

図 5-6. 性別と親しく話をする人の有無（ひばりが丘）

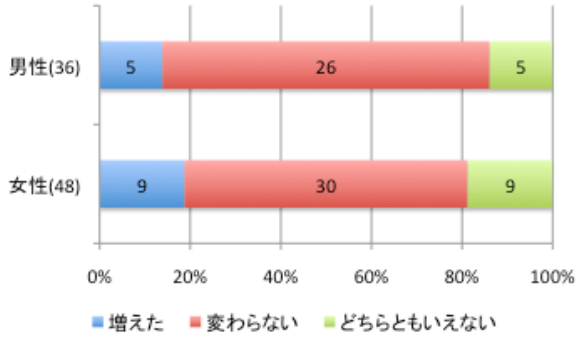

図 5-7. 性別と親しく話をする人の変化（同じマンション）

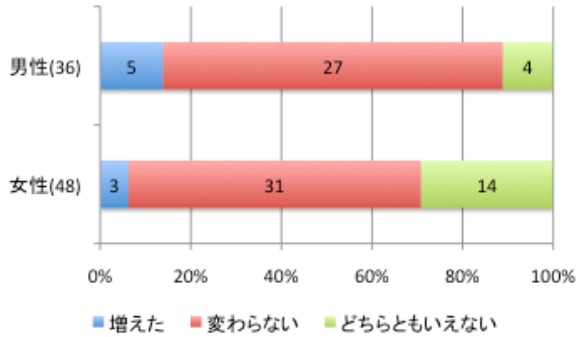

図 5-8. 性別と親しく話をする人の変化（ひばりが丘）

「親しく話をする人」の有無と変化を年齢別に示したものが図 5-9～12 である。いずれにおいても「60 代」に向けて低下していく社交性が「70 代以上」になると回復する傾向がうかがえる。

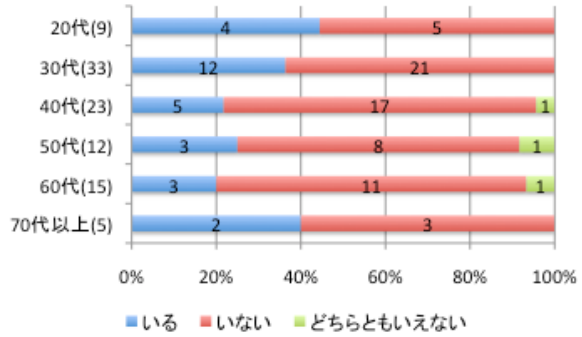

図 5-9. 年齢と親しく話をする人の有無（同じマンション）

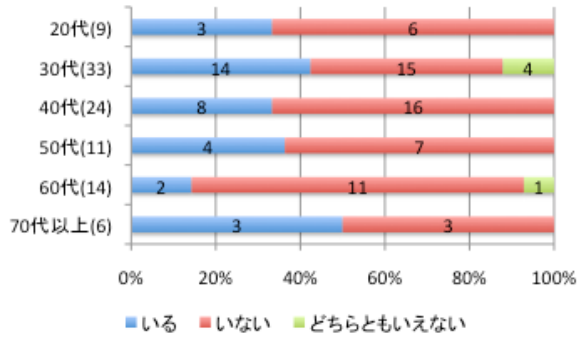

図 5-10. 年齢と親しく話をする人の有無（ひばりが丘）

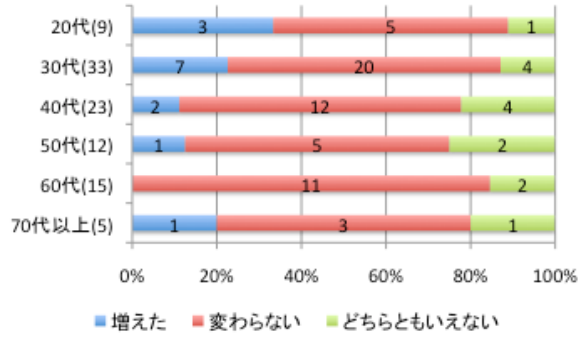

図 5-11. 年齢と親しく話をする人の変化（同じマンション）

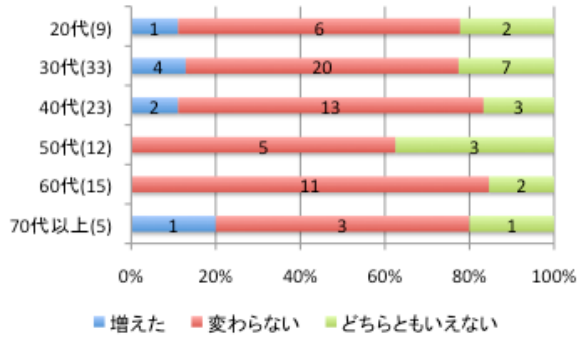

図 5-12. 年齢と親しく話をする人の変化（ひばりが丘）

図 2-2 で見たイベントへの参加状況と「親しく話をする人」の有無・変化の関係を図 5-13～16 に示す。イベントへの参加状況と「親しく話をする人」の有無の間には相関関係が認められる。また、イベントに「参加したことはない」回答者のうち、「まちにわ」や「ひ

ばりテラス」での交流を通して「親しく話をする人」が増えたケースはほとんどなく、ひばりが丘でのエリアマネジメントにおいて、現時点でのつながりづくりの起点がイベントにある状況がうかがえる。

図 5-17 は、「親しく話をする人」が「増えた」とする回答者がどのイベントに参加したかを示したものである。比較的親しい関係が築かれていると思われるイベントに「まちにわリビング」などがある。

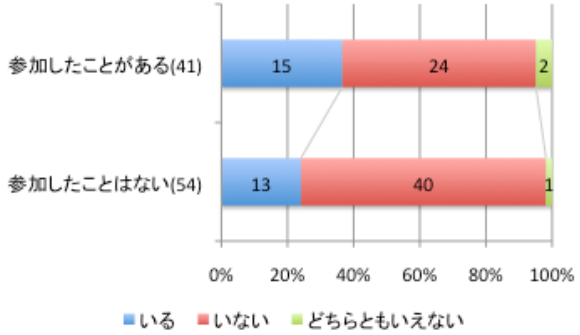

図 5-13. イベントへの参加状況と親しく話をする人の有無（同じマンション）

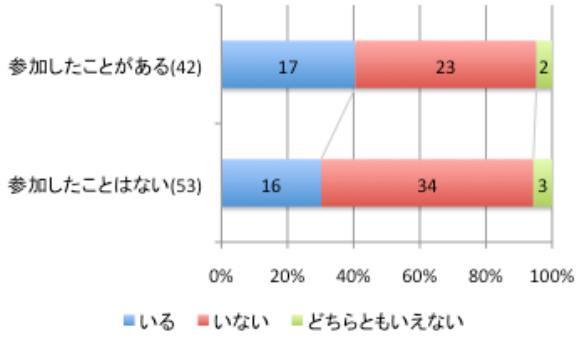

図 5-14. イベントへの参加状況と親しく話をする人の有無（ひばりが丘）

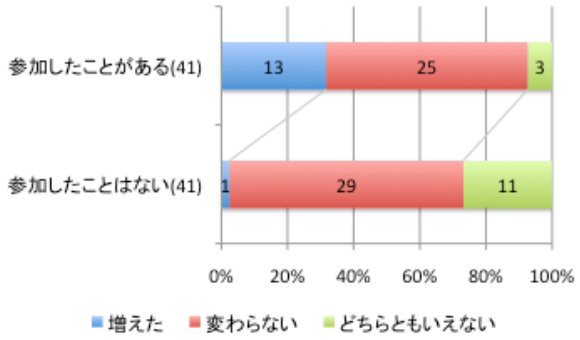

図 5-15. イベントへの参加状況と親しく話をする人の変化（同じマンション）

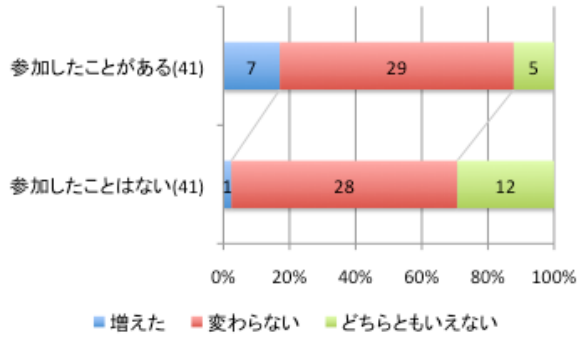

図 5-16. イベントへの参加状況と親しく話をする人の変化（ひばりが丘）

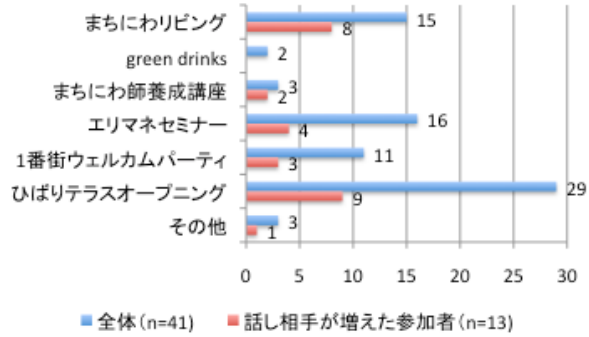

図 5-17. 親しい話し相手が増えた回答者が参加したイベント

6. まちへの愛着と期待

ひばりが丘が「自分のまち」だと感じるかどうかを尋ねたところ、「強くそう思う」「まあまあそう思う」との回答が 6 割近くを占めた（図 6-1）。この設問に対する自由回答を表 7-11 に示す[6]。

図 6-2 は、ひばりが丘というまちの最大の「魅力」と、まちに最も「望むもの」を尋ねたものである。最大の「魅力」だと思うものは「自然環境」や「まち並み・景観」に集中しているが、「望むもの」は「安心・安全な環境」「子育てのしやすさ」「まちの活気」など幅広く分散している。

図 6-3 は、同様の問いに対する回答を第 3 位まで集計したものである[7]。「買い物のしやすさ」は、2 番目・3 番目に多く挙げられた「魅力」である。表 7-12、13 は、「魅力」「望むもの」として挙げられた「その他」の内容である。

[6] 「まあまあそう思う」「まったくそう思わない」を選択した上での自由回答を含む。
[7] 順位の重み付けはしていない。

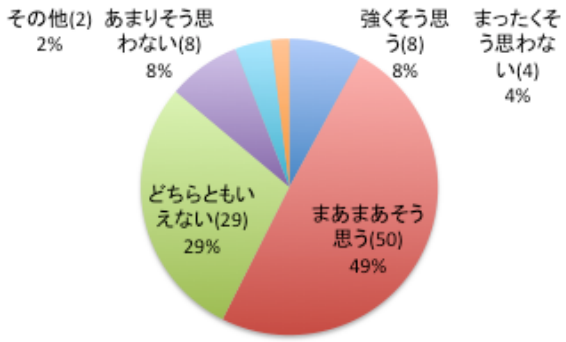

図 6-1. ひばりが丘は「自分のまち」と感じるか（n=101）

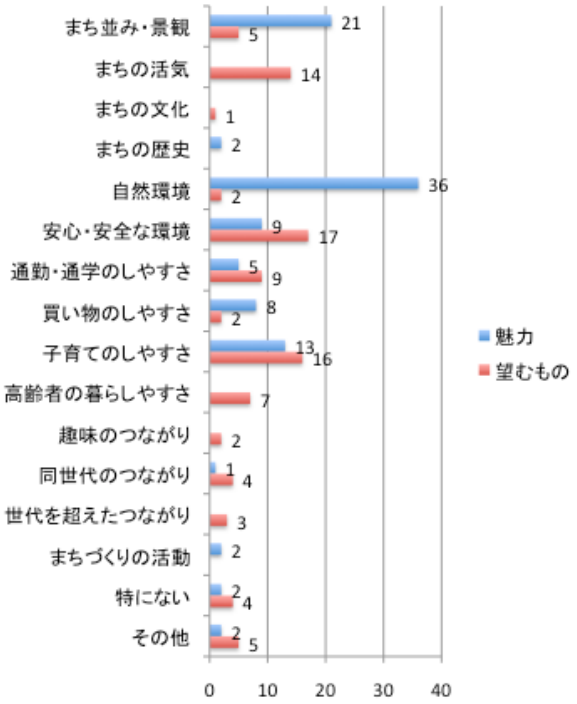

図 6-2. まちの最大の「魅力」と最も「望むもの」（n=101）

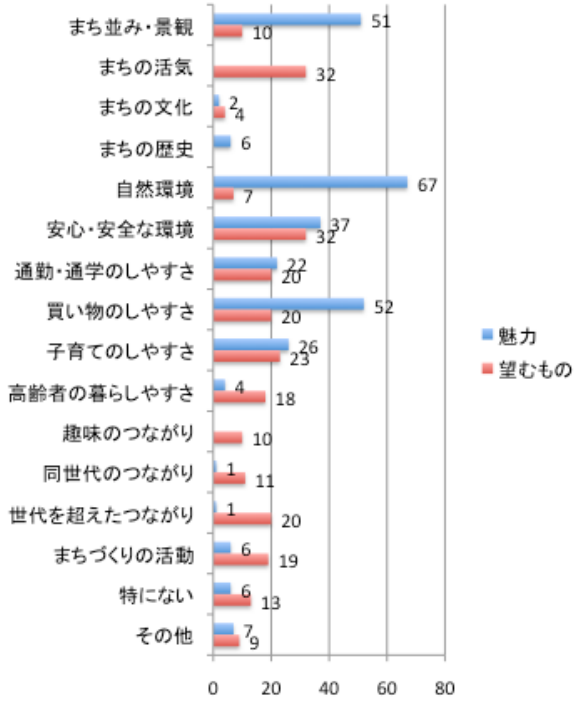

図 6-3. まちの「魅力」と「望むもの」1～3 位（n=101）

ひばりが丘が「自分のまち」と感じるかどうか、つまりまちに「愛着」を持っているかどうかを「性別」「年齢」「家族構成」毎に示したものが図 6-4～6 である。男女別には、「男性」よりもやや「女性」の方が愛着を持っている。年齢別には、「60 代」を底として若年層または高年層になるほど愛着が高くなる傾向が読み取れる。家族構成別には、「夫婦」「親と子（未成年を含む）」において愛着は比較的高い。

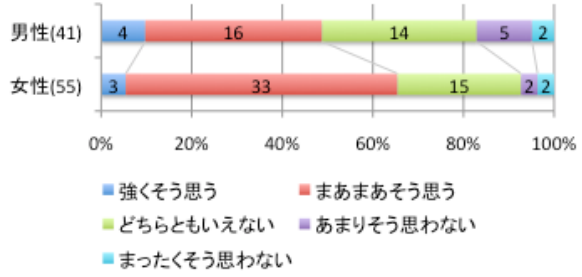

図 6-4. 性別別のまちへの愛着

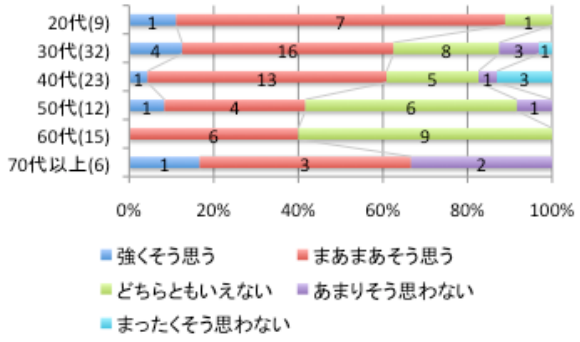

図 6-5. 年齢別のまちへの愛着

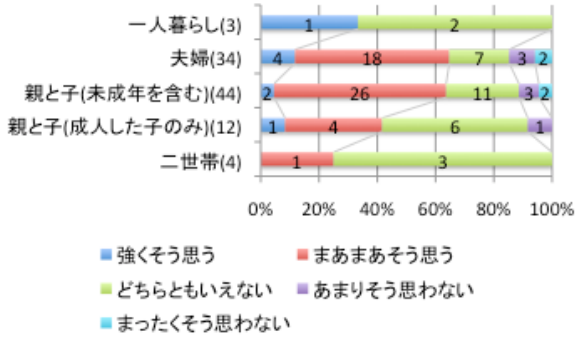

図 6-6. 家族構成別のまちへの愛着

「まちにわ」を知っているか、「まちにわ」のイベントに参加したことがあるか、「まちにわ」の運営に参加しているか／したいか、「カフェ」を利用したことがあるか、ひばりが丘内に親しい話し相手がいるかどうかとまちへの愛着との関係を示したものが図 6-7～12 である[8]。親しく話をする人の有無を除けば、現時点でこれらは必ずしも相乗的な関係にあるとはいえないが、これらが今後どう連動していくかに着目したい。

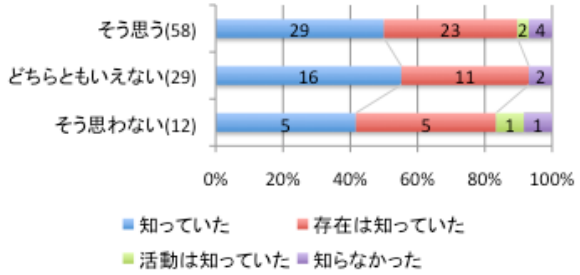

図 6-7. まちへの愛着と「まちにわ」の認知

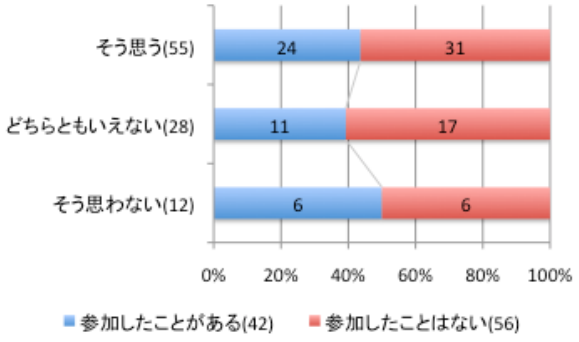

図 6-8. まちへの愛着とイベントへの参加状況

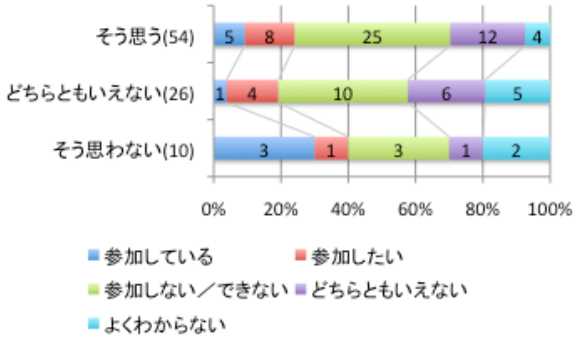

図 6-9. まちへの愛着と「まちにわ」の運営への参加

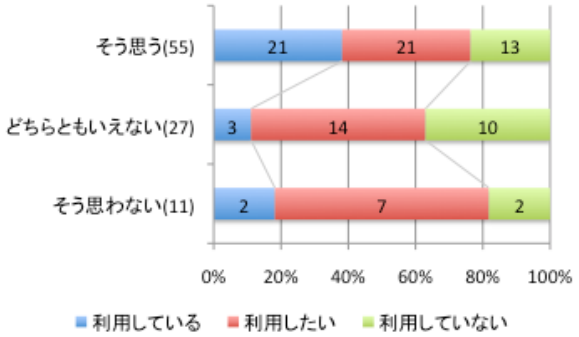

図 6-10. まちへの愛着と「カフェ」の利用状況

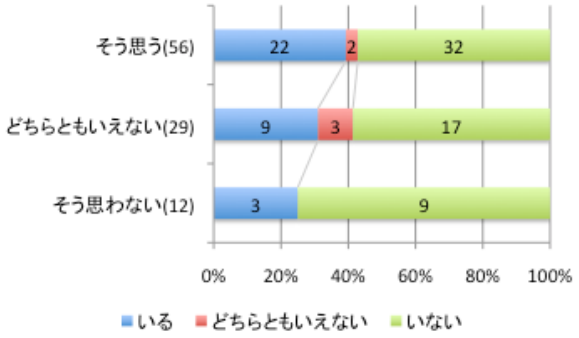

図 6-11. まちへの愛着と親しい話し相手の有無（ひばりが丘）

[8] 「強くそう思う」と「まあまあそう思う」を「そう思う」に、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を「そう思わない」にまとめて集計した。

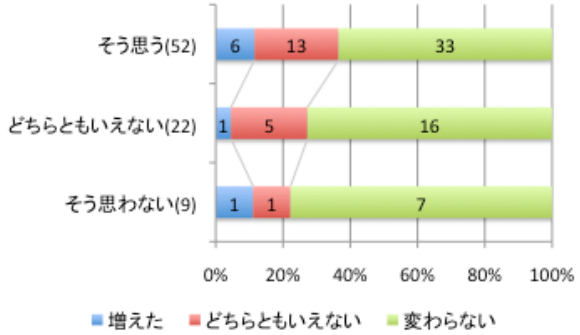

図 6-12. まちへの愛着と親しい話し相手の変化（ひばりが丘）

7. 自由回答

以下、各設問の自由記述を示す（表 7-1～13 については既述）。表 7-14 は、ひばりが丘のまちづくり・つながりづくり全般に対する意見・感想・アイデアである。

表 7-1. 参加したイベント（図 2-3）「その他」自由回答

- クリスマスツリー点灯式／30 代女性
- 年越しそば／30 代女性
- 年越しそば／60 代女性

表 7-2. イベントに参加したことがない理由（図 2-4）「その他」自由回答

- 都合が合わないことが多かった／20 代女性会社員
- まだ転居していない（2016/3 月末に入居予定）／40 代女性専業主婦・家事手伝い

表 7-3. 企画したい／して欲しいイベント（図 2-5）「その他」自由回答

- 住民との交流（気軽に参加できるイベント）／30 代女性
- スポーツ「ランニング、バスケ，フットサル」／30 代男性
- 祭りなど大イベントを用意してほしい／40 代男性
- 二人とも仕事（フルタイム）があり、今はどの活動にも参加は無理でございます／70 代男性